

近現代史(16) 19世紀欧米文化① 文学史編

1. [1. 古典主義] 文学

☆古代ギリシア・ローマの文化を理想とし、調和と形式的な美しさを重視した文芸上の傾向。17世紀のフランスに始まり、17世紀末～18世紀中期のイギリス、18世紀中期～19世紀初期のドイツで広まった。

☆[2. 疾風怒濤] (シュトゥルム=ウント=ドラク) … 1770年代からドイツに起こった文学運動。世俗的道德や因習を否定し、個性と自然を尊重し、人間感情の発露を求めた。

| | |
|--------|---|
| 3. ゲーテ | 『4. <u>若きウェルテルの悩み</u> 』。清純な若者の恋愛感情を描く。 |
| | 『5. <u>ファウスト</u> 』。ファウストが悪魔メフィストと出会い、あの世での魂の服従を交換条件に、現世であらゆる人生の快樂・悲哀を体験させるという約束をする。攻略ヒロインは素朴な街娘グレートヒェンとギリシャ神話世界の美女ヘレネー。 |
| 6. シラー | 『群盗』。疾風怒濤時代の代表作。自由奔放な人間像を描いた。 |

2. [7. ロマン主義] 文学

☆ロマン主義文学の起源

①フランス革命 = 「理性崇拜」！！

②しかし・・・ → 反対派を抹殺するジャコバン独裁 + ナポレオンのヨーロッパ諸民族の抑圧

③その結果 → 理性に対する信頼は失われ、ドイツを中心に個人の感情や想像力を重んじ、過去に回帰して歴史や民族の伝統を尊重する文化が生まれた！！ ⇒ ロマン主義

(1)ドイツのロマン主義

| | |
|--------------|--|
| 8. ノヴァーリス | 『青い花』。夢に見た青い花を求めて放浪する詩人が主人公 |
| 9. グリム兄弟 | 『童話集』。民族の伝統の研究。『アテナウム』でロマン主義運動を推進 |
| 10. シュレーゲル兄弟 | 兄は批評家・翻訳家でシェイクスピアの名訳。弟は歴史家・哲学者で『文学対話』。 |
| 11. ハイネ | 『歌の本』。七月革命後はパリに居住し、革命詩人と呼ばれる |

(2)フランスのロマン主義

| | |
|--------------|----------------------------------|
| 12. スタール夫人 | 『デルフィーヌ』。ネッケルの娘。ナポレオンに迫害され外国に亡命。 |
| 13. シャトーブリアン | 『アタラ=ルネ』。政治的には反動的。革命中は英に亡命。後に外相。 |
| 14. ユーゴー | 『レ=ミゼラブル』。人道主義的な共和主義者。第二帝政を否定。 |

(3)イギリスのロマン主義

| | |
|------------|--|
| 15. ワーズワース | 『叙情詩選』。敬虔な汎神論的自然観を展開。最初は共和主義、のち保守主義。 |
| 16. バイロン | 『チャイルド=ハロルドの巡礼』。ギリシア独立戦争に参加して病死した情熱詩人。 |
| 17. スコット | 『湖上の美人』、『アイヴンホー』を残したロマン派作家・詩人。 |

(4)アメリカのロマン主義

| | |
|------------|------------------------------|
| 18. エマソン | 『自然論』。楽天的な個人主義を謳歌する。 |
| 19. ホーソン | 『緋文字』。ピューリタニズムの厳しさを描く。 |
| 20. ホイットマン | 『草の葉』。アメリカの自然を謳い、自由と民主主義を賛美。 |

(5)ロシアのロマン主義

| | |
|--|--|
| ○[21. <u>プーシキン</u>] | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア国民文学の祖。作品の民主的傾向により、南ロシアに追放され、バイロンの影響を受けてロマン主義的作品を残す。 ・デカブリストの乱鎮圧後、追放刑が解かれ、検閲のもとで作家活動を行う。 ・代表作『オネーギン』、『プガチョフ反乱史』、『大尉の娘』など ・貴族、農民、勤労者などあらゆる社会階層を対象とし、文学のジャンルも多岐に渡る。 | |

3. 写実主義文学と自然主義文学 (19世紀半ば～後半)

資本主義経済の問題点の噴出 + 市民社会の成熟 + 科学技術の発展



非現実的なロマン主義からの転換

[22. 写実主義]

人生の現実をありのまま表現しようとする

[23. 自然主義]

人間を科学的に観察し、社会の矛盾や人間性の悪の面を描写する。

3-1. 写実主義文学

(1) フランス

| | |
|------------|--|
| 24. スタンダール | 『赤と黒』。軍隊や聖職者など特権階級に敵意と野心を持つ人間を描く。 |
| 25. バルザック | 『人間喜劇』。奔放な想像力と鋭い観察力によって市民社会と小市民を描き出した。 |
| 26. フロベール | 『ボヴァリー夫人』。一女性の不倫と自殺を優れた性格分析と細部描写で描く。 |

(2) イギリス

| | |
|-----------|--|
| 27. サッカレー | 『虚栄の市』。人間の不完全さを風刺的客観的に描写。 |
| 28. ディケンズ | 『二都物語』。下層社会を題材に取り、機知とヒューマニズムに溢れた作品を残す。 |

(3) ロシア

| | |
|--------------|---|
| 29. ゴーゴリ | ロシア写実主義文学の確立者。『外套』『検察官』『死せる魂』 |
| 30. ドストエフスキー | 『罪と罰』: 社会正義のための殺人の是非。『カラマーゾフの兄弟』: 人間の魂の救済 |

3-2. 自然主義文学

(1) ドイツ

| | |
|------------|----------------------------------|
| 31. ハウプトマン | 包容力と時代への順応性により自然主義以後の文学の推移を体現する。 |
|------------|----------------------------------|

(2) フランス

| | | |
|--------------|-----------|-------------------------------------|
| ゾラ | 『32. 居酒屋』 | 絶望的な庶民の生活と女性の生き様を描く。 |
| (仏) | 『33. ナナ』 | 下層階級出身のナナがその容貌によって上流階級に食い込むも梅毒で死ぬ。 |
| | 『私は弾劾する』 | [34. ドレフュス事件]で軍部を批判しドレフュスを擁護。 |
| [35. モーパッサン] | (仏) | 『女の一生』。夫の無理解と粗暴に苦しむ救いようのない女性の生涯を描く。 |

(3) 北欧

| | | |
|---------------|----------|-------------------------------------|
| [36. イブセン] | (ノルウェー) | 『人形の家』。女性を取り囲む環境の厳しさと女性解放運動への展望を描く。 |
| [37. ストリンドベリ] | (スウェーデン) | 不幸な生い立ちと結婚生活の破局から女性不信の作品。『令嬢ジュリー』 |

(4) ロシア

| | |
|-------------|---|
| 38. トゥルゲーネフ | 『獵人日記』『父と子』。農奴制の矛盾と苦悩するインテリゲンツィアを通じてニヒリズムを描く。 |
| 39. トルストイ | リアリズムと人道主義を結合しようとする努力。『戦争と平和』『安娜=カレーナ』 |
| 40. チューホフ | 鋭い観察力、リアリズムに立ちペーソス(悲哀)溢れる筆致でロシア社会・人間を描く。『桜の園』 |